事例No.	2819
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	小川　治孝

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・人材確保・育成

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

新しい事業とツナガリの創出による、地域活性化の取り組み

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　個人表彰



新しい事業とツナガリの創出による、地域活性化の取り組み

小川（おがわ） 治孝（はるたか）氏

DATA

事　例　名：新しい事業とツナガリの創出による、地域活性化の取り組み
所　在　地：広島県三次市甲奴町西野544-1
連　絡　先：TEL 0847-67-2136
　　FAX 0847-67-2137
　　Email harutaka@ogawa-motors.com
ホームページ：https://www.ogawa-motors.com

取り組みの概要

2007年家業を継ぐ。翌2008年、自身が運営するガソリンスタンド事故に対する地域の温かい対応をきっかけに、地域への想いが一変。地域貢献活動をスタート。地域活性化を担う中間支援組織「特定非営利活動法人地域活性化プロジェクトチームGANBO」や、地域米の独自販売サービスを担う「小川商店」を設立。「創生と循環のまちづくり」に向け、地域資源と魅力の掘り起こしや、内と外をつなぐ取り組み、起業・雇用につなげる活動に寄与している。

評価された点

●地域の暖かさに目覚めた個人が、地域の商品開発や交流人口拡大の多様な活動を行っている点を評価。
●地域と関わるきっかけに物語性があり、商業、農業と幅広い分野で取り組みを進めていること、また、住民が主体的に立ち上がって関係人口も巻き込んで継続しており、他地域の模範になると考える。
●地域貢献活動に至るストーリー、NPO法人を立ち上げ事業化やつながりづくりに積極的に取り組んでいる姿勢や今後の事業継続を見据え若者を中心とした事業展開も行っている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　2008年～

・自身が運営するガソリンスタンドの事故をきっかけに、地域貢献の熱い想いが芽生える。

2012年～

・甲奴の自然環境と人に価値を見出す。
・地域にたくさんの“小さな箱”をつくりたい。

・アスパラガスの成分分析について県立広島大学と産学連携。

地元有志等により地域活性化のNPO法人を立ち上げる

・地域再生や地元食材の加工商品化、農業体験など、地域資源と魅力を掘り起こし、発信するため、地域活性化を担う中間支援組織、NPO法人地域活性化プロジェクトチームGANBOを立ち上げる。
・遊休農地を活用した米作り体験や、地元の特産品・アスパラガスの粉末化など農産物の活用に取り組む。
・小さな起業・小さな雇用を積み重ねていく。

2014年～

・米作り体験には、広島や福山など近郊市町から延べ150人が参加。
・農業の疲弊を目の当たりにし農業再生に動き出す。

・商工会の創業支援を受けて小川商店を設立。

地域農家と顧客企業をつなぐ「スマイル10アール事業」をスタート



・新事業運営のため、本業とは別に小川商店を設立。
・企業が10アールの田んぼのオーナーとなり、そこでできた米をオリジナルノベルティとして活用するもの。
・農家の安定収入、梱包作業やラベルデザインなどの新たな仕事の創出。
・スマイル10a 事業が、がんばる中小起業・小規模事業者300社2015に選ばれる。ひろしま里山グッドアワード2018「さとやま未来大賞」受賞。

2019年～

・取り組み拡大に伴い拠点が必要。

・耕作放棄地への対策。
・若者とのつながり。

ブルーベリー栽培等に着手



・遊休農地20aにブルーベリー 30品種600本を作付。（現在は作付面積35a　55品種1100本）
・栽培には福山大学、県立広島大学をはじめ延べ40人以上/月の学生が参画する。

2023年～

・発表会の開催について県補助事業を活用。

大学生×まちづくり



・大学生による地域資源活用ビジネスモデルの研究および実践発表会を開催。第1回せとうちビジネスコンテスト（福山市）において当会から福山大学REBORNが発表したプランが最優秀を受賞。
・2023年度の発表会には大学・高校から12チームが参加。

今後の展望

・圃場面積3haで6000本のブルーベリー栽培を目指す。ブルーベリーを産業化し多様な職種をつくる。
・スマイル10a事業を拡大する。2024年4月から新卒の大学生が専任者として入社予定。事業を引継ぎ、独立を目指す。
・（大学生×まちづくり実践発表会を継続する。）発表されたビジネスモデルの具体化を応援する。
・地域に在るヒト・モノ・コトを資源と捉え持続可能な地域づくりを念頭にした事業をつくる。

受賞者のコメント

思いもよらぬ受賞に驚きました。活動を共にする皆様とこの喜びを分かち合おうと思います。地域とは「先人から譲り受け、子孫から借りている宝である」との思いで活動してきました。先人に感謝し、まずは託された自分たちが幸せになることを大切にしています。そして次の世代へは押し付けではなく〝魅せる〟ことで地域を紡いでいけたら最高です。これからも地域のビジョンを多くの人と共有し、ワクワクする地域を創造していきます。